

令和4年度 学校自己評価表 廿日市立四季が丘中学校

学校教育目標 「夢に向かってともに学ぶ～自他尊重～」

	評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善方法									
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	昨年度	中間	最終値			達成率	評価	結果と課題の分析	コメント					
確かな学力・体力の向上	生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力(主体的表現力の育成)	【主体的表現力の育成】 ①自らの授業をより主体的にする工夫・改善を行う。 ②「本質的な問い」による授業改善を進める。 ③ディスカッションによる思考の深化を図る授業づくりを行う。 ④ICTの効果的な活用を進める。	①-A 自ら発見した課題に「考えを持つ」「考えを伝える」授業の構成 ①-I 「めあて・振り返り」四季中スタイルの実践と充実 ②-A 「本質的な問い」を踏まえた「質の高い問い」の設定 ②-I 生徒の学びをファンリテートする授業の実践と充実 ③「四季中ステップ」四季が丘ディスカッション(段階表)」による生徒の実態や学習内容に合った協働学習の実践と充実 ④-A 生徒が主体的に学ぶためのツールとして効果的な活用 ④-I G Suite等による個別最適な学習の実施 ④-II 廿日市市「授業改善のためのICT活用推進計画」による「専業主導型授業」の取組 ⑤SDGsと関連付けた未来創造的な学習の実践 ⑥「15歳の生徒に身に付けさせた力」の意図的、計画的な指導	「話し合い活動に主体的に参加できている」と回答する生徒の割合(授業評価アンケート)	90%	89%	90%	81.5%	91%	B	今年度は既定期定している討議の場が設定された。班単位での討議は、クロムブックを使用しながら全員が自分の考えを発表することはできていた。しかし、まだ討議により意見の交換会という印象が強く、そこから深めていくための場が指導員より多くの経験が必要であると懸念している。「どう思いますか?」という発問は教科などでも多くされるが、意見を1度言ったらそこで終わってしまうという思考が対話の場では必要である。	・授業中の態度、クラスの雰囲気は落ち着いている。どのクラスでも先生の顔をしっかりと見て、真面目に勉強に取り組んでいるのが実感できる。 ・ディスカッションの段階表があるので、生徒もどこまで達成すればよいのかが分かり、とても良いと思いました。 ・自分に係わる事をテーマにする、生徒も意見を持ちやすく話し合いも活発になるのではないだろうか。この意味では、校則改定は生徒にとって意見を出しやすいテーマだと感じます。ただし、意見があっても表現したくない生徒もいることでしょうか。生徒がどうしても意見を述べたいようなテーマを設定する必要があると思いました。	・本校で作成しているディスカッションの段階表を各教科でどのように活用していくのか、またICT(機器)を思考を取り組んでいるのが実感できる。 ・ICTの活用については教職員スキルアップが求められるので、定期的な研修を実施する。ICT活用担当者が中心となり、具体的な実践的な研修を行い、授業に役立てていく。						
				「「めあて・振り返り」四季中スタイルを実施している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)	85%	—	93.3%	91.7%	108%	A	「ディスカッションによる思考の深化を図る授業づくりを行っている」と回答する教師の割合(教職員アンケート)			80%	—	53.3%	50.0%	63%	C
				「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む生徒の割合(全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙)」	80%	86.9%	82.4%	—	103%	A	「ICTを活用している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)			80%	51%	80%	75%	94%	B
				「学力調査の「思考力・表現力」の問題の通過率(1月実施の学力調査問題による)」	5教科 理科 国語 平均値	1年 5教科 2年 3教科 平均値	2年 3教科 5教科	88%	B	「自分の将来のことを考えている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	85%			78%	79%	74%	87%	B	
				「自分の思いや考えを相手に伝えることができる」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	85%	83%	84%	80%	94%	B	「自分の思いや考えを相手に伝えることができる」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)			85%	83%	84%	80%	94%	B
豊かな心	生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、互いに認め合い、協働しながら課題を解決することのできる力を育成する。(協働性と自己有用性の育成)	【協働性と自己有用性の育成】 ①人とつながることのできる生徒を育成する。 ②小集団(班)から大集団(学年・縦割り)までの組織的な活用を進める。 【協働性と自己有用性の育成】 ① 生徒のディスカッションを中核とした主体的な活動の実施 ②-I 異学年縦割り班のリーダーを中心とした主体的な活動の実施 ②-II 異学年縦割り班のリーダーを中心とした主体的な活動の実施 ③-A 学年担任制を生かした教育相談体制の充実 ③-I アセスの活用による早期発見・早期対応 ③-II 学校内いじめ防止対策委員会の機能化(組織的対応) ④ 不登校生徒等へのソーシャルサポートルーム(SSR)担当教師と特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を整備する。	「学級活動、行事、係・委員会活動など前向きに取り組んだ」時間はいっぱい(生感態評価表)と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	94%	97%	95.5%	107%	A	「生徒指導規程の見直しを全校参加で継続的に進め、生徒提案をまとめることができた。学校が自分たちで創って意識を高めることができた。」	・自分たちが係わって改訂した生徒指導規程ならば、生徒は守らうとするでしよう。誇りを持つようになるのではないだろうか。そのような取組を支援された先生方に敬意を表します。ただし、改訂に係わった生徒たちが卒業し、数年経つと改訂したときの熱意が薄れていくということを懸念します。そのような取組を思いつく準備を継続的に進めたいと思います。	・生徒の主体性を引き出し、協働することで得られる自己有用感を育成することができるよう委員会活動や行事等(生徒が主体となる場面を積極的に設定していく)。							
			「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	—	96%	90.9%	101%	A	「コロナの制限がある中で、学年間をつなげる取り組みや感謝を伝える場を設定し、自己有用感を高めるように努めている。また、掲示物や学習指導、生徒指導などを通じて、生徒の前進的な姿を積極的に発信している。」									
			「自己有用感・自己肯定感に関する項目に肯定的な回答をする生徒の割合(生徒アンケート)」	85%	80%	91%	90.8%	103%	A	「SSRにおける指導と校内ユニバーサル体制の一層の充実 ④-I コットレオナインの導入による不登校の未然防止の取組の充実									
			「「めあて・振り返り」四季中スタイルを実施している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)	85%	—	93.3%	91.7%	108%	A	「学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合(保護者アンケート)			90%	85%	75%	74%	82%	B	
			「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合(保護者アンケート)	90%	89%	81%	79%	88%	B	「四季が丘中学校区地域学校協働本部(西中サポーター隊)や地域の力や学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進めている」と回答する地域関係者の割合(学校関係者アンケート)			90%	—	100%	111%	A		
信頼される学校	【働き方改革の推進】 ・学年担任制の利点を生かし、子どもと向き合う時間を確保し、親身になって生徒に関わる組織を確立する。 ・職場環境の整備と教職員の意識改革を推進する。 【積極的な情報発信】 ・積極的な情報発信を行い、保護者・地域の学校への理解を深めるとともに、協働関係を深める。 【地域連携、地域貢献】 ・地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進める。	①働き方改革による教育の質の向上 ・チームとしての教育活動の推進 ・ホームページの定期的な更新 ・各学年、進路により、保護者よりの発信 ・PTAとの連携 ・PTA活動の工夫改善、保護者満足度の向上 ④地域との連携 ・地域学校協働活動の充実	「時間外勤務80時間超え」にらならない職員の割合	90%	87%	89%	96%	107%	A	「時間外勤務を減らすこととする機運が高まりつつあり、前回よりも数値的には改善されているが、その一方で持ち帰り仕事は増える傾向にある。各月の80時間超えになる教員は最大で2名であった。職場の働きやすさに対しては中間値を維持するに留まり、3ポイント変更した。単なる時短ではなくワークライフバランスの実現につながるような取組をしていく必要がある。」	・働きやすい職場と働きやすい職場とのバランスは学校の中で本当に難しいことだと感じています。両輪を回していくのは四季中だけでなく、今後とも必要かと思えます。勤務時間外で判断していることは少なからず感じます。								
		「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合(保護者アンケート)	90%	89%	81%	79%	88%	B	「学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合は1ポイント減であった。「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合は2ポイント減であった。今年度は授業参観後の懇談会を年2回行ったが、本年度は懇談会が実施されず、各様々内容の充実を図ったことと改善を図りたい。」										
		「四季が丘中学校は、地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域貢献を進めている」と回答する地域関係者の割合(学校関係者アンケート)	90%	—	100%	111%	A	四季が丘中学校区地域学校協働本部(西中サポーター隊)や地域の力や学校に積極的に参加したことで、生徒たちと直接関わっていたことと、協働的な学習の時間においては、教員に対しては様々な関わり方をしていた。本校の校則を検討する「校園ディスカッション」では校則に関して地域の意向を聞き取りたいという生徒も出て、地域の中の学校ということを感じることができた。											
【小中共通】	【小中共通テーマ】 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成 【協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成】 【小中共通の生活習慣の徹底】	・本質的な問いによる授業改善 ・合同授業研究、合同教育研究会の実施	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合(生徒アンケート)	85%	—	72%	76%	90%	B	「どう思いますか?という発問が特別ではなくなってきた。生徒は自分の考えを持ち、伝えることに抵抗が少なくなってきた。しかし発表時にこちらから「それはなぜ?」と問い返すことも多く、「論理的に、分かりやすく」という視点での発表のし方について継続的な指導が必要である。	・家庭学習に見通しを持たせるように課題の提示の仕方を工夫する。 ・やらされる活動ではなく、主体性を重視しながら今後も活動を組んでいく。								
		・各校や発達段階に応じた学習習慣を確立するための期間・内容の設定	「私はふだん家で一日1時間以上勉強しています」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	80%	59%	57%	60%	75%	C	なかなか家庭学習の時間が伸びない現状はある。また、年々、宿題を提出できる生徒とできない生徒の差も固定化され、広がっていると感じる。1学年では3学期の放課後学習会を設定したが、個別に丁寧な指導が必要だと再確認している。									
		・小中合同あいつ運動の実施	「あいつがきちんとできる」と自己評価する生徒の割合(学校評価生徒アンケート)	90%	87%	96%	96%	107%	A	「生徒会執行部が中心となって取り組んだ挨拶運動などを通して、挨拶に対する意識が高まった。生徒会執行部が挨拶を大切にした学校づくりをすることが伝統となっており、今後も生徒主体で高まっていけるよう支援していきたい。」 小中合同挨拶運動では、多くのボランティア生徒が参加してくれ、先輩としての意識を持って取り組んでくれた。									

評価基準	評価基準	評価基準
目標値に対する達成度	目標値に対する達成度	目標値に対する達成度
A 十分に達成されている	100%以上	
B 概ね達成されている	80%以上100%未満	
C やや不十分である	60%以上80%未満	
D 不十分である	60%未満	

※数値の項目の平均値で評価する。